



八雲立つ地の原子力 —— 県都にあればこそ 安全性を極め、共栄を目指す

溝口善兵衛 ● 島根県知事

石原孝子 ● 松江エネルギー研究会代表

権田喜作 ● 恵曇鮮魚仲買組合長 (写真左から権田喜作、溝口知事、石原孝子)

古代神話と豊かな自然に彩られた島根県は、日本人が大切にしてきた何かを感じさせる。県都松江市は、鹿島町との合併により日本で唯一、原子力発電所がある県庁所在地となった。古代文明の地であり、鑪（たたら）文化の地でもある島根県、今では国策としての原子力という視点を持って原子力政策を進めている。

● 日本文化の源流が島根にはある

—— 島根県は神話の国であり、柿本人麻呂が和歌に詠み、小泉八雲が日本の原風景を見出したように、日本文化の源流があるように思います。島根県の魅力から。

溝口知事: 島根県は自然豊かな地です。中国山地では雨が良く降り森林がよく育成しており、降った雨雪が大小の河川を伝って松江近辺ですと宍道湖に流れ、中海を通過して日本海に出て行くという豊かな水の都です。恐らく島根半島は太古は島だったと思いますが、その水によって土砂が堆積し、海が仕切られ内水湖ができたという日本海側でも特異な地形をしています。

島根半島にぶつかった土砂は出雲（簸川）平野を作りました。松江もその一つです。米子の弓ヶ浜半島も沖積平野です。平野部では以前から稲作を中心に農業が盛んでしたが、近年ではブ

ドウやメロンなどの園芸作物も盛んです。

一方、中山間部では農作業のため昔から各戸で牛を飼っていましたが、そうしたことから伝統的に牛を育てるノウハウがあり、今では和牛の生産が盛んです。実は、和牛の源流の一つは島根にあるとも言われています。

宍道湖は汽水湖で、豊富な魚貝類に恵まれ、“宍道湖七珍”（スズキ、モロゲエビ、ウナギ、アマサギ、シラウオ、コイ、シジミ）と呼ばれ、郷土の味覚として親しまれています。日本海では暖流と寒流がぶつかり回遊魚やカニが豊富に穫れます。

欧米から機械文明が入るまでの日本は農業中心の世界でしたから、このように自然の豊かな恵みのある出雲の地は古来から栄えており、大和と並ぶような勢力がありました。大和朝廷の日本制覇の中で出雲の神が国譲りを行ったという神話からもわかっており、連綿とこの地には人が住み、文化があったということです。

明治以降、近代文明が日本に入って来る過程では、島根には地形的に不利な点があり、発展がやや遅れたのですが、そのため古き良きものが沢山残りました。また、戦後は、重化学・自動車・電機工業などが太平洋側を中心に発展し、日本も経済成長をしてきましたが、最近では自然の大事さやゆったりと暮らすことに価値観を求める人が増えてきています。島根は古い文化も豊かな自然もある魅力ある地なので、ますます良さを見出してくれる人が増えてきています。

石原: 風光明媚ですし、文化があるというのは代え難いことです。松江市は奈良、京都と並んで国際文化観光都市に指定されていますが、住民投票が行われ、圧倒的多数の賛成を得て、国際観光都市建設法が国会で承認され、国際文化観光都市となったという意識の高さが松江の文化の在り方です。小泉八雲がいたお陰で戦火に遭わなかったことから、松江城を始め古い良いものがそのまま残っています。

宍道湖・中海がありシジミはブランド商品です。自然に起こることはしょうがないですが、私たちが生活する上で荒らしてしまう部分、家庭の生活排水などは一人ひとりが気をつけなくてはなりません。「松江エネルギー研究会」の代表をしており、そこで感じるのは地球温暖化問題も含め、環境意識の高い人が他所に比べて多いような気がします。文化度の高さも松江の特徴だと思います。

溝口知事: 知事就任前は東京に長く居ましたが、島根には落ち着き



全国約48%の漁獲量を誇る宍道湖のしじみ

があり、ゆったりとした時間が流れています。

権田: 私も4年間都会に出ていましたが、松江駅に着くと宍道湖があり、そこに空間が生まれ安らぎを感じます。アメリカのシアトルに1ヶ月程いましたが、似通ったところがあり環境的にも非常に恵まれた都市です。

私は鹿島町で鮮魚仲買・水産加工業を営んでいますが、知事がおっしゃられたように、島根半島沖は暖流と寒流がぶつかるところで、魚種も豊富で、魚の活きも締まりも良いのでブランドとして発信しています。最近ではJF島根が魚食普及に取り組んでおり、



江戸時代の武家屋敷が並ぶ塩見縄手

大手スーパーイオンとの直接取引を始めましたので、東京の築地市場でも話題となっています。

溝口知事: 産地が近いので穫れるものが新鮮なのです。

石原: それが私たちは当たり前のことなのです。(笑)

—— 国際文化都市の将来的な展開については、どのようにお考えでしょうか。

溝口知事: 松江は今、開府400年祭を行っています。初代堀尾吉晴が城を造り、後に家康の孫にあたる松平直政が城主となり明治まで続き、その間には松平不昧公をはじめ多くの文化人・茶人が輩出され茶道の文化もあります。県庁は松江城の三の丸にあたりますが、毎秋、大手門の横の広い馬場では、抹茶と煎茶10流派が一堂に集まって大茶会が開催され、和服姿の女性の方々も大勢来られます。そういう都市は他にはあまりありませんよ。東京などから講演会の講師で来られた方などに控室で抹茶と和菓子を出されてよく驚かれることがありますが、そういう文化があるのです。

大都市ではお城の堀を潰して道路にしてしまったのですが、塩見縄手にはお堀を始め中世の武家文化が色濃く残っています。日本三大船神事の一つと言われる「ホーランエンヤ^{*1}」や、古く



日本三大船神事と言われるホーランエンヤ。華やかで勇壮な時代絵巻が繰り広げられる



市内を練り歩く鑿行列の様子

から伝わる「鑿(どう)行列^{※2}」も大事に伝えられてきました。

京都・奈良の雅の文化に対し、島根には神話と武家文化が伝えられ、茶の文化を通したホスピタリティーもあります。海外の方にとっても日本文化にふれることのできる魅力的な地になっていると思います。

※1 大橋川、意宇川を約100艘の船が通過する12年に1度の祭。

※2 鑿と言われる大太鼓を何台も連ねて打ちながら市内を練り歩く祭り、毎秋行われる。

● 県都に原子力発電所のある意味

—— 中世から受け継がれた文化を大事に伝えて行くと共に、科学技術の粋を集めた原子力施設が鹿島町との合併によって、松江市に内包されましたが、原子力に対する思いは。

4 **溝口知事**：日本全体を見ますと、自前のエネルギー源はあまりありません。戦後は水力発電が主流でしたが、工業が発達するにつれてそれでは足りないということで、石炭・石油火力となってきました。しかし、石油の価格が以前は安かったのが、どんどん価格が上がるとい状況になってきて、安定したエネルギー源を廉価で供給する方法を考えたとき、安全を充分考えた上で原子力が日本で活用されるようになりました。今は全発電量の30%ぐらいですね。

加えて近年では地球温暖化問題が出てきて、CO₂削減に取り組むことは、国際的にも義務的なものとなっています。今や、CO₂を排出しないエネルギー源の確保はどうしても必要です。島根県の森林は、CO₂の吸収に大変役立っていますが、やはり排出源の元から減らすことが必要です。とは言うものの、原子力は過去に海外で問題が起きているので、安全確保を最優先に推進していかなくてはなりません。安全確保に万全を期す体制を国がきちんと構築することが大事だと考えます。

島根原子力発電所は県都に建設されています。人口密集地(19万4402人/2009年10月1日)にかなり近く、そこが他の原子力発電所とは大きく違うところです。環境や安全に対する関心が高い住民の方々に、安全対策なども判りやすく説明して、ご理解をいただく努力が大切です。

権田：地元鹿島町に住んでいますが、1にも2にも安全確保が第一条件です。1号機以来、大きな事象・事故が起こっていないこともあり、原子力発電所は地元の大きな産業として評価されています。立地・設置によってもたらされる効果、特に電源三法交付金が多いのですが、そうした財政基盤に立って街づくりが進んでいるという実感があります。加えて重要な国策に協力しているという自負も住民にはあります。地元としては発電所と共生しながら歩んで行くということだと思います。

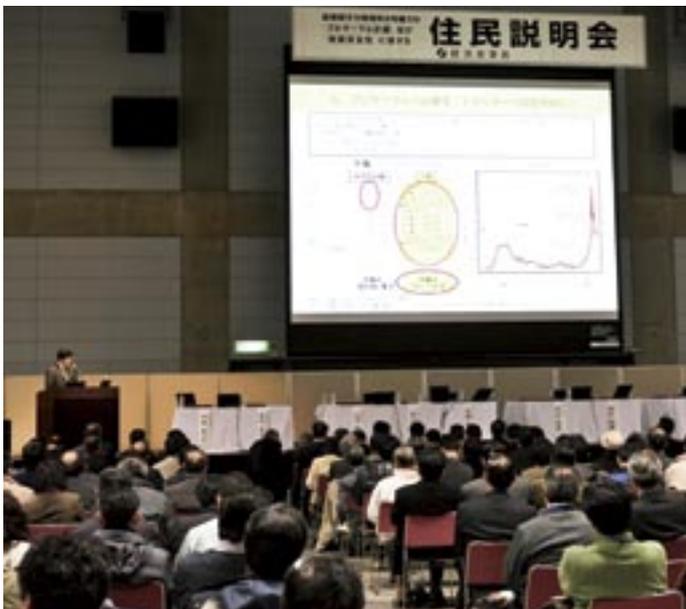
石原：学校等に行って、皆さんと地球温暖化問題も含めて省エネルギー問題を一緒に考えていますが、CO₂削減を考えれば原子力は外せないというのが現実です。環境省も原子力の必要性は言っていますね。そうすると、私たちがいかに原子力を理解するかが必要です。松江市民はまだ充分理解に至っていませんが、それは原子力の用語が難しいことと、怖いものとインプットされていることがネックになっています。正確な情報を伝え、原子力について知らなくてはならないと思ってもらえるような機会作りを、まずやらなくてはと思ひ頑張っています。

県庁所在地に発電所があるということもあり、私たち民間と県の原子力安全対策室との関係も他地域より密に行なえるというメリットを活かして、2009年11月29日に放射線についての講演会を行いました。誰が主催して情報を県民に提供して行くかが重要なのです。例えば放射線なら壁からも出ているし、医療でも使われています。理解した上でまだ怖いと感じるのと、知らないで怖いと感じるのとは異なると思うのです。どうしても声の大きい反対派の声に惑わされてしまうところがあります。行政の立場できちんと伝えて下さるなら、民間はいくらでも協力します。県庁所在地の松江だからこそやっていかなくてはいけないと思います。

● 事業者と国の両輪で安全と信頼の構築を

—— 原子力は基本的に怖いものだという前提に立って、安全を確保しつつ進めて行くということでやってきましたが、プルサーマルの問題があります。島根県もプルサーマルを受け入れていただきました。それまでの間、知事も大変ご苦労されたと思います。

溝口知事：安全確保は新しい知見が出て来る都度、それを踏まえて管理の仕方など安全対策や安全基準を見直していく必要があります。過去において不幸だったことは、電力会社の側からの情報の開示が充分でなく、またデータ改ざんの問題などもあり、住民の方々に不信感を持たれるということが起こりました。原子力発電所そのものの安全確保と同時に、人々の信頼が得られるような運営を行うことが非常に大事です。信頼がなければ幾ら説明しても、入り口で拒否され、人々の理解は得られません。ここ



2009年1月17日、松江市内で行われた国によるプルサーマル計画の住民説明会には、約400人が参加した

は国、電力会社できちんとやってもらわなければなりません。

プルサーマルは国が評価をし、県民に説明され、我々も独自に国の評価を専門家にチェックしていただきました。そのような経緯を経て2009年の3月末に松江市と島根県で了解をし、プルサーマルの準備が始まることになりました。既に九州電力の玄海原子力発電所でプルサーマルが始まっていますが、これからは、例えば活断層に対する新しい情報や知見、あるいはプルサーマルの技術の進歩など、新たに蓄積される知見を活かして、より厳しい安全管理をしていくことが重要です。我々が了解した前提でもあるのですが、新しい知見が出る都度、安全性をチェックしながら安全を確保していくことが大切です。住民の疑問なり問題意識に直接応えていくことが非常に大事で、その積み重ねがあってはじめて住民の方々の信頼が得られるということを強く感じております。

権田：知事のご発言がありました。プルサーマル自体への理解は地元では進んでいないようですし、目に見えては進まないと思います。今ある原子力発電所の発電プロセスすらなかなか分からず、プルトニウムとかプルサーマルという横文字そのものが難解で抵抗があります。理解してもらうには自治体なりがもっと広報なり、説明会を重ねていく必要があります。情報はメディア等が入るので、そこで判断してしまっているような感じがします。

石原：プルサーマルはやはり難しいです。1回聞いただけでは分かりません。私自身は東京のNPOに所属しており、そこで何度か話を聞きやうと理解したという状況ですので、機会を得て、専門家の話を聞いていかないと、電力会社の話だけではどうしても話が難しくなってしまう。分かり易く話せる専門家を如何に養成していくかも今後の課題だと思います。

溝口知事：分かり易い説明を繰り返し行わなくてはなりませんね。しかし実際の仕組みまで全ての人が理解するというのは難しいと思います。大切なことは、専門家がきちんと安全性の評価をし、それに基づき電力会社が適切な管理・運転をする、国の規制も含めた安全確保体制がきちんと機能するということです。こうした体制が確立し、そうしたものに人々が信頼するということがないと、住民の安心は得られません。

●地元にとって重要な電源三法交付金

—— 原子力発電所は国策であるが故に、地元の方々にご苦勞をかけながらここまで来ました。同時にお互い豊かになり幸せになっていくという目標があったわけです。その点、地域の活性化についてどのような評価をされているのでしょうか。

溝口知事：電源三法交付金等、原子力発電所に対する国の制度が、県の財政や雇用に対して貢献をしているのは確かです。原子力の問題と同時に、発電所があることによる便益があることも、例えば電気料金の割引制度など住民の方に分かり易く説明していかなくてはなりませんね。

権田：原子力発電所立地の見返りとして、いろいろな形で恩恵を受けるわけですが、主に箱ものやインフラ整備にしか使えなかった以前と違って今は使い勝手が良くなっており、環境、教育、観光、福祉的な支援事業にも使えます。原子力発電所設置当初から期待していた部分ですが、政権が変わり、仕分け作業でも三法交付金が対象になっているというので、どのような判断がされるのか心配ですが、制度は残してもらわないと地元は納得できません。

溝口知事：国全体のエネルギー政策に寄与しているわけですから、それに対する配慮は適切にやっていくべきです。原子力発電所は国のエネルギー政策の根幹を成す部分ですから、政権が交代しても国としての必要性は変わらないはず。むしろ地球温暖化問題の中で重要性は一層増しています。地元の理解・協力を得られてはじめて進むべき道がひらけるのです。

石原：やはり地元にもメリットがないということでは、理解は難しいでしょう。

権田：1号機設置の折には各地域に集会場等の箱ものが建設されました。ハードの整備も重要ですが、これからは環境や地域文化にも効果的に使える、地元だけでなくメリットが県民全体に見える形で使っていただければと思います。そして各種の交付金事業の効用・効果の「見える化」を一層進めて欲しいです。

石原：原子力発電所立地県だからこそ、エネルギー・環境教育は重要です。そこにお金が使えれば地元にある原子力の意味が分かります。小学校低学年から行えば良いのですが。

—— 人材育成、環境・エネルギーも含めた教育、そして一次産業に力を入れて欲しいという地元の声をよく伝えます。

溝口知事：今後もエネルギー需給の中で原子力発電所の果たす役割は大きくなって来ます。国民、地元にも理解されるような政策を国がよく考え、その上に立って地方公共団体も協力していくことが大事だと思います。

島根県では、島根原子力発電所3号機に関して策定された公共施設整備計画に基づき、総額144億1650万円の交付事業を実施中。(事業期間：平成16年度～22年度)

島根県	道路改良、歩道整備、河川改修
松江市	道路新設、道路改良、新情報システム、体育館、環境衛生施設、中学校校舎、給食センター、集会所、歴史探訪ルート、歴史資料館、幼保一元化施設、保育所、消防小型動力ポンプ積載車及びポンプ、消防機庫、防火水槽、河川改修、重油タンカー、カントリーエレベーター、農道舗装、レクリエーション広場